



さおとめ じゅん
五月女 淳さん

在籍した時期：1989年～1990年、高等部2～3年（現地校の卒業まで在籍）

出身大学：一橋大学

現在の仕事：国際協力機構（JICA）本部で、民間セクター開発（産業振興、貿易促進、スタートアップ支援等）を担当。これまでに海外赴任や官公庁への出向を経験。

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

日本人がほとんどいない現地校に通っていたため、週に1回、他の高校から集まる日本人と顔合わせできる楽しい場所でした。学校が終わった後にスポーツをしたり、家に遊びに行ったりと課外活動も楽しみにしていました。

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

日本の大学受験で必要とされる数学や国語（論文）を丁寧に教えていただいた結果、希望する大学に入学することができました。数学は試験問題を先生と一緒に解いていました。また、日本の大学受験は小論文が重視されますので、かなりの数の小論文を書いて、先生に添削していただいた気がします。実践的な教育、大変ありがとうございました。

Q. どのタイミングで生活の軸を日本にしようと思いましたか？

昔から生活の拠点は日本に置きつつ、海外との仕事に携わりたいと考えていたため、高校卒業後は日本の大学に進学しました。ただ、先にミシガン大学工学部に入学許可をいただいたため、入学手続きをして籍を置いたままにしていました。日本の大学生活が合わなければ、いつでもアメリカの大学で学べるようにしたかったからです。途中でアメリカに戻りたいという気持ちもありましたが、アメフト部に入ったこともあり、結局最後まで日本の大学に通いました。



高校時代にはエンジニアを目指したことも

Q. JICA を就職先にした理由とお仕事の魅力は？



昨年11月に視察した
円借款で支援する
ホーチミンメトロ



海外にいと、日本人という意識を強く持つようになり、日本の良いところをもっと海外の人に知ってもらいたいと思いました。そこで、日本の外交に興味を持ち、有力な外交ツールである政府開発援助（ODA）を現場で実践している JICA に関心を持ちました。大学時代にバックパッカーとしてベトナムに行った際、現地の人々との交流を通じて、ベトナムの人と一緒に仕事をしたいと思ったことも JICA を希望した理由の一つです。様々な途上国援助の事業に携わる中で、ベトナムのほか、思い出の地であるアメリカ・ワシントン DC への赴任も経験できました。また、経産省や内閣官房へ出向し、日本政府の方針に基づいて日本にもメリットをもたらす ODA を選定する作業なども大変勉強になりました。

Q. 在校生へのメッセージ

海外で生活すると自分のアイデンティティが分からなくなることがありますが、日本人として誇りを持って、日本の良いところを海外の人々にアピールしてほしいです。そのためには、日本の社会・文化・歴史等をしっかり勉強し、相手に分かりやすく説明できることが重要だと感じています。応援しています！